

ジン 300 mg/日内服下で、ベッドの下に落ちたものを拾おうとした時に突然心拍数 200/分の頻拍となり数十秒間の失神を来した。心房粗動の 1 : 1 伝導になったものと考えられ、直流除細動を行い洞調律となった。その後の心エコーにより心房中隔欠損症が確認されたため、本症例は心臓カテーテル検査の予定とした。

第 2 回新潟消化器病遺伝子・免疫研究会

日 時 平成 7 年 12 月 1 日 (金)
午後 6 時 ~ 午後 8 時 30 分
会 場 新潟グランドホテル
悠久の間

I. 一 般 演 題

1) 大腸癌患者で増加する CD57⁺ T 細胞

岡田 貴幸・飯合 恒夫
滝井 康公・畠山 勝義 (新潟大学第一外科)

【目的】我々は CD56⁺ T 細胞が担癌患者の末梢血中 (PBMC) で増加していること、および肝臓に多く存在していることから肝臓由来の胸腺外分化 T 細胞である可能性があることを示した。今回我々は、CD57⁺ T 細胞と担癌患者との関係およびその由来臓器につき検討した。【対象と方法】大腸癌患者 48 人および対照群 18 人 (正常人 4 人、良性疾患患者 14 人) の末梢血より単核球 (PBMC) を、大腸癌主病巣の一部から TIL (n=22) を抽出し、CD57⁺ T 細胞の比率を検索した。CD57⁺ T 細胞の由来臓器を検索するため、肝 (n=10) を大腸癌肝転移患者の肝非癌部より、リンパ節 (n=2) および脾 (n=1) を胃癌患者より、骨髄 (n=10) を白血病患者より、胸腺 (n=5) を心血管疾患の患者より採取し、各免疫臓器における CD57⁺ T 細胞の比率を検索した。CD57⁺ T 細胞は、CD3・CD57 のモノクローナル抗体を用い、FACSscan で解析した。【結果】大腸癌患者 (20.0±13.0%) の PBL で、対照群 (13.4±7.2%) に比し、CD57⁺ T 細胞は有意に (p<0.01) 増加していた。TIL において、CD57⁺ T 細胞 (13.8±6.8%) は、CD56⁺ T 細胞 (6.8±6.0%) に比し有意に (p<0.01) 多く認められ、また NK 細胞は、PBL の約 1/10 であった。各臓器における T 細胞中 CD57 陽性細胞は、23.9±12.7% と骨

髄にもっとも多く認められた。病期 (DUKES 分類による) の進行とともに PBL の CD57⁺ T 細胞は、増加する傾向がみられ、対照群と D 群で有意差 (p<0.01) が認められた。【まとめ】1. 大腸癌患者の PBL において CD57⁺ T 細胞の増加が認められた。2. TIL において、NK 細胞はわずかにしか存在せず、CD56⁺ T 細胞に比し CD57⁺ T 細胞が多く認められた。3. 免疫臓器中、骨髄において CD57⁺ T 細胞がもっとも多く認められた。4. 病期の進行とともに CD57⁺ T 細胞の増加が認められた。【結語】大腸癌患者の PBL において CD57⁺ T 細胞の増加が認められ、その由来は骨髄である可能性が示唆された。

2) マウス肝臓における胸腺外分化 T 細胞の胸腺細胞に対する細胞傷害活性についての検討

諸田 哲也・鈴木 晋
塚原 明弘・多々 孝 (新潟大学
安保 徹 (医動物免疫))
諸田 哲也・飯合 恒夫
鈴木 晋・塚原 明弘
多々 孝・畠山 勝義 (同 第一外科)

【目的】我々は、マウス肝類洞で胸腺外分化する T 細胞について報告してきた。これらの T 細胞は TCR (CD3) を弱く発現し (intermediate CD3 細胞)、IL-2R β を常時発現しており、また、NK1.1⁺、NK1.1⁻ 細胞の両者を含むという特徴を持つ。これに対し、胸腺由来の T 細胞は TCR (CD3) を強く発現し (high CD3 細胞)、通常 IL-2R β、NK1.1 の発現はない。今回、肝胸腺外分化 T 細胞の胸腺細胞に対する細胞傷害活性について検討したので報告する。【方法】マウスの肝臓、脾臓より単核球を採取、effector とし胸腺細胞を target とし、⁵¹Cr 遊離試験にて細胞傷害活性を測定した。さらに、Cell sorter にて肝単核球各分画を分離、同細胞傷害活性を測定した。また、RT-PCR 法にて Fas 及び Fas ligand mRNA の発現を検討した。【結果・考察】肝単核球は胸腺細胞に対する細胞傷害活性を認めたが、lpr マウス胸腺細胞に対しては認めなかった。脾単核球、gld マウス肝単核球は細胞傷害活性を示さなかった。自己胸腺細胞に対する細胞傷害活性は int. med. CD3 細胞—特に NK1.1⁺ 細胞—のみに認められ、NK 細胞、high CD3 細胞には認められなかった。また、胸腺・肝単核球での Fas、肝単核球での Fas ligand mRNA の発現を認めた。以上の結果は、同細胞傷害活性への Fas-Fas ligand の関与、肝胸腺外分化 T 細胞の自己傷害性を示